



大会では白熱した戦いが繰り広げられた

5区が優勝!
第40回親子ピンポン大会

11月17日、親子ピンポン大会が長島体育館で7行政区、9チームの参加により開催され、5区チームが優勝しました。

この大会は町卓球協会(千葉正行協会長)が主催し、毎年開催しており、今回で40回目。参加チームは、小学生・中学生・保護者の各年代でチームを構成し、団体戦形式により競技を行います。例年11月と定着していることもあり、この大会に向けて地区公民館などで練習を重ねてくるチームもあり、地域と親子の絆を深める良い機会となっています。

大会結果は次の通りです。

- ▽優勝 勝II 5区
- ▽準優勝II 1区
- ▽第3位II 13区



優勝に輝いた16区のメンバー

16区チームが優勝!
ソフトバレーボール大会

第34回毛越寺杯争奪町内ソフトバレーボール大会が11月17日、平泉中学校体育館を会場に9行政区、9チームの参加により開催され、16区チームが優勝しました。

この大会は、町バレーボール協会(瀧澤実会長)が主催し、毎年開催している大会で、地区の親睦と運動不足解消にとっても良いと評判で、人気のある大会です。

また本年度はオリンピック種目ではありませんでしたが、「行政区でいつも出ているから」といったように、定着している大会でもあります。

大会結果は次の通りです。

- ▽優勝 勝II 16区
- ▽準優勝II 12区
- ▽第3位II 2区、11区



大勢の人が参加したバドミントン大会

ふるさとオリンピック
バドミントン大会が開催

ふるさとオリンピックバドミントン大会が12月1日、平泉中学校体育館で9行政区9チームの参加により開催され、7区チームが優勝の栄冠を勝ち取りました。

大会結果は次の通りです。

- ▽優勝 勝II 7区
- ▽準優勝II 1区
- ▽第3位II 11区

本年度のふるさとオリンピックはこの大会が最終種目となっており、全6種目の合計点で本年度の成績が確定します。

表彰は2月16日に開催予定の生涯学習市民のついでで行われます。ふるさとオリンピックの詳しい成績については、広報ひらいらいずみ2月号でお知らせします。

団員を募集しています

平泉剣道スポーツ少年団では随時団員を募集しています。防具やはかまなどの用具は貸し出しますので、初めての人でも安心です。興味のある人はぜひ見学に来てください。

- 活動日時…主に毎週日曜日 9:30~11:00
※土曜日に活動を行う場合もあります。
- 活動場所…平泉中学校 柔剣道場
- 申し込み・問い合わせ先
平泉剣道スポーツ少年団 事務局 千葉芳揮
☎090-8613-0164



平泉剣道スポーツ少年団のメンバー

平泉剣道スポーツ少年団が
県南少年剣道大会に出場

11月24日、平泉中学校柔剣道場で第12回岩手県南少年剣道大会(佐々木和也協会長)が開かれ、県南地区の少年少女剣士56人が参加し、盛況のうちを終了しました。



どんなマーク?

「たばこには害だけですか?」という子どもからの質問に対して、小野寺先生は、「たばこを吸って良いことは、1つもありません。ばり」と答えていました。学習後の6年生の感想を一部紹介します。

「初めて知って一番びっくりしたことは、『たばこは、吸っている人より周りにいる人に害が出る』ということでした。煙には吸うときよりも2倍以上の有害物質が含まれていることに驚きました」

「ノンアルコールだからといって、飲んでしまいうとアルコールが入っているかもしれないということも分かりました。私は、大人になっても、薬物を使ったりたばこを吸ったりせず、健康で過ごしたいと思いました」

今回の学習を通して、6年生は、薬物の乱用やたばこ、酒への不適切な関わり方などによって、心、体、周りの人々との関係をほろぼろにしているといけないということも強く心に刻みました。

平泉讃歌を学ぶ会

11月26日、「女神」の星吉紀さんをお招きし、「平泉讃歌を学ぶ会」を開催しました。星さんは、シンセサイザー奏者、作曲家として国内外で広く活動しています。

全校児童を対象とした授業では、「平泉讃歌」誕生までのいきさつ、作詞者の大庭桂さんについて、そして星さんがこの曲に託した思いなどの話がありました。

この曲には、「伽藍」「浄土」「ことほぎ」など小学生にとっては難解な語句もあります。星さんは、これらの語句について、クイズを交えて楽しく解説してくれました。また、シンセサイザーを用いたインスタウルメンタルの美しさに児童は感激した様子でした。

星さんの作曲活動の説明、児童も簡単な曲作り挑戦。4、6年生の代表がリズムやメロ



シンセサイザーに興味津々の子どもたち

授業終了後にも、全員がシンセサイザーに触れる時間を設けていただき、とても貴重な体験となりました。

授業の最後には、星さんの伴奏で「平泉讃歌」を合唱。歌い慣れている歌ですが、響きの良い伴奏で歌うのはとても気持ちが良いものです。児童は、作詞者や作曲者の思いを感じながら心を込めて歌うことができました。

「もしもいつか自分の家族が認知症になったらどうしよう風にならばよいのかを考えさせられる機会になりました」(宮田風輝さん)

「認知症の人も大変だろうなと感じたし、自分でできることをサポートしていきたいと思いました」(高橋聡太さん)

「認知症という言葉は知っていたけれど、病気の内容はよく知らなかった」(小野寺終太さん)

「認知症について今まで考えたことはありませんでした。自分の身近な人もなる可能性があるのでもっと理解を深めたいと思いました」(岩淵木乃葉さん)

「なかなか思いが通じないと強く当たってしまいう気持ちも分かるけど、それは良くないことなので、自分もいつか介護する立場になったら気を付けたらいいと思います」(小野寺終太さん)

「なかなか思いが通じないと強く当たってしまいう気持ちも分かるけど、それは良くないことなので、自分もいつか介護する立場になったら気を付けたらいいと思います」(小野寺終太さん)

12月2日、3年生を対象に岩手医科大学医学部助教高橋純子先生を講師に迎え「孫世代の認知症講座」が行われました。高齢化が進行する中、認知症について理解を深め、今後どのように対応していけば良いのかを分かりやすく教えていただきました。高橋先生は「平泉は3世代、4世代同居世帯が多いので、生徒たちの理解が非常に深い」と感じられたようです。

「たばこは、吸っている人より周りにいる人に害が出る」ということです。煙には吸うときよりも2倍以上の有害物質が含まれていることに驚きました」

「ノンアルコールだからといって、飲んでしまいうとアルコールが入っているかもしれないということも分かりました。私は、大人になっても、薬物を使ったりたばこを吸ったりせず、健康で過ごしたいと思いました」

今回の学習を通して、6年生は、薬物の乱用やたばこ、酒への不適切な関わり方などによって、心、体、周りの人々との関係をほろぼろにしているといけないということも強く心に刻みました。

「たばこは、吸っている人より周りにいる人に害が出る」ということです。煙には吸うときよりも2倍以上の有害物質が含まれていることに驚きました」

「ノンアルコールだからといって、飲んでしまいうとアルコールが入っているかもしれないということも分かりました。私は、大人になっても、薬物を使ったりたばこを吸ったりせず、健康で過ごしたいと思いました」



真剣に講師の話をお聴きする生徒たち